

令和4年度 水城高等学校自己評価表

目指す 学校像	○学力の向上を図り、グローバル化・多様化する社会に通用する人材の育成を目指す。
	○主体的に学び、活動する姿勢を育み、自ら考え、判断し、行動できる人材の育成を目指す。
	○部活動等の課外活動に意欲的に取り組み、活力ある学校を目指す。
	○健全な道徳観を有し、敬愛・友愛の情をもって他者と協調し、社会に貢献できる人材の育成を目指す。

昨年度の成果と課題	本年度の重点目標	重点目標	達成状況	
・東北大6名、北海道大2名のほか、京都大・東京外国語大・お茶の水女子大・一橋大・神戸大・九州大など難関国公立大学に合格者を出し、筑波大9名、茨城大43名を含めて、国公立大学・大学校合わせ178名の合格者を出した。 ・私立大学は早稲田大・慶應義塾大をはじめとして781名(短大11名含む)の合格となった。 ・福島県立医科大など、国公立大学の医学部医学科に7名、東北大学の歯学科・岐阜薬科大等の国公立大学の歯学科薬学科に、14名が合格した。 ・難関国公立大学に連続して合格者を出すとともに、一人ひとりの希望に合った進路実現を目指す。 ・連続16回の男子駅伝はじめアーチェリー・空手道男子・競技かるた・写真・書道が全国大会等で活躍した。女子駅伝・女子バレーボール・空手道女子・陸上競技・剣道男子・水球・水泳男子が関東大会に出場し、県内で、硬式野球がベスト4となるなど、各部・同好会がコロナ禍による制約の中でも活躍した。 ・部活動の一層の活性化を図り、文武両道を目指す。	・授業の質の向上を目指す。	・タブレット導入6年目。全生徒がタブレットを所有する充実したICT環境の中で、コロナ禍でも継続的に主体的で効果的な学びを実現し、大学入学に対応できる学力を身に付けさせる。 ・十分な教材研究を積み教員間で授業見学を行ったり、コロナ禍の下安全に十分配慮しつつ外部の情報を受け入れたりすることで研鑽し、質の高い授業を展開できるよう努力する。 ・生徒からの授業アンケートの結果を指導に生かし、常に授業の改善・工夫に努める。	5	・教員の技能がより高まり、コロナ禍にも柔軟に対応している。
	・きめ細かい進路指導を実施する。	・個別面談・LHR・集会をはじめとして、学校生活の各場面で生徒をよく観察・把握し、生徒の適性や希望に応じたきめ細かな進路指導を工夫して行う。	4	・コロナ禍に留意しつつ外部での研修に参加し始めるとともに、新規採用教員公開授業参観等を通じ自己研鑽を続けた。
			4	・引き続き、生徒の要望や感想を真摯に受け止めて、授業の改善・工夫に努めている。
			4	・各学年が適切な時期に三者面談や二者面談を実施し、生徒のより良い進路選択の実現のため支援を行ってきた。
		・コロナ禍でも、安心安全に十分配慮し、可能な範囲で、各種講演会や各種研修会を実施し、教育の現状や実態を十分理解して、幅広い見識をもって進路指導にあたる。	4	・前年度より研修機会を増やし、カウンセリング・教育現場の法解釈・カリキュラムマネジメント等の講演を聴く機会を設けた。
	・生徒が落ち着いて学習でき、安心して安全に学校生活が送れるような環境を整える努力をする。	・入試問題の傾向分析と模擬試験結果の分析を、定期試験の作問のスキル向上に活かし、日々の学習活動や放課後ゼミ活動をととして、生徒の学力の増進を図る。	4	・新入試3年目で新傾向問題等の研究を重ね、指導に反映させるべく努めた。また、「水城の探究」の時間で調べ学習を継続させ、校外での探究活動も盛んに行わせ、新入試への対応力も養った。「いばたん」等外部団体の表彰も倍増している。
		・多様化する生徒の実態を踏まえて、教職員チームによる支援体制を整え、必要な見直しを行い工夫を加え、引き続き、進路変更の防止を目指し、生徒が充実した生活を送れるよう必要な研鑽を積み、対応する。	5	・3年目となる教育相談部が主体となり、養護教諭・カウンセラーと連携し、多様な生徒に可能な限り細やかに対応し、生徒の状態の改善や進路変更の防止等に対応し続けている。
		・通学路での交通安全指導により、交通ルール遵守と公共の場でのマナーを身に付けさせることを含め、成年年齢18歳の時代に一人前の社会人としての資質を備えられるよう研鑽する。	4	・生徒指導部が主導し、教員の朝立哨と放課後巡回を継続した。自治体や他校、PTAと登下校時の安全指導も続けている。
		・情報化社会を生きる人間としての自覚を持たせ、SNS利用時の注意点などを踏まえたメディアリテラシーをしっかりと身に付けさせられるよう工夫する。	4	・継続して情報の授業や集会・LHRの機会等に、メディアリテラシーについて考える場を設け、18歳成年を自覚させることにも関連させ、諸トラブルの回避に留意させる指導を行っている。
	・募集広報活動を充実させる。	・普段から生徒をよく観察し、また面談やアンケートを活用し接していくことで、いじめの早期発見・未然防止に努める。	4	・生徒指導部主導で匿名のいじめに関するアンケートを年3回継続実施する等生徒の動向に留意し問題の早期発見と対応に努め、生徒の多様化にも適切に対応すべく研鑽している。
		・本学の教育理念に共鳴する入学者を確保するために、組織的・計画的に広報活動をする。	5	・生徒募集部で中学校や塾に丁寧・適切に対応し、本校HPを通じ、学校理念・学校生活等を外部に発信し続けている。
		・コロナ禍の中でも、安全に部活動など課外活動に多くの生徒が参加し、学業と両立して充実した高校生活が送れるように支援する。	5	・男子駅伝が全国大会出場17回を達成し、アーチェリー・空手道・女子バスケット・フェンシング・競技かるた・写真・書道が全国的活躍をした。女子駅伝・女子バレー・陸上トラック・フィールド・剣道・水球水泳も関東大会で活躍する等結果を残した。
		・清掃等の奉仕活動を通して公共心や社会性、他者を思いやる気持ちを養うとともに、環境問題を考えるきっかけを与える。	4	・毎日の清掃活動を継続し環境美化の意識を向上させ、探究やインターアクトの活動で環境問題を考える機会も設けた。
	・課外活動や特別活動を活性化させる。	・生徒会や委員会等で、生徒がより主体的に活動できるよう、適切な助言・支援を行う。	4	・生徒会を中心とした文化祭毎年開催実現ほか、美化委員会の道路清掃活動の継続等、主体的な生徒の活動を支援した。

1. 教科

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
国語	・生徒の基礎学力の向上を図る。	・朝自習やゼミ学習の機会も活用し、授業時間以外での日常的な学習時間を確保する。特に、ゼミに関しては、基礎から応用まで幅広く講座を開講することで、学力層に応じたフォローアップを図る。これらを通じて、社会生活を送る上で十分な国語能力を身につけさせる。	4	4	・各学年・コースの特性に合わせた朝学習やゼミの展開ができている。特にゼミは生徒の実状に合わせて学年の教員とも課題を共有しながら開講している。漢字や語彙などの知識を基礎とした言語運用能力の必要性は年々増しており、今後も養成に力を入れていく。
	・生徒の家庭学習習慣を確立する。	・予習復習及び教科書を超えた自主的な取り組みの重要性を説き、生徒が主体的に課題発見と克服に取り組めるようにする。また、必要に応じた授業録画による家庭での反復学習環境整備、時期に合った課題の提供など、幅広い学力層の家庭学習に対応する環境を整え、学習習慣の定着を図る。	4		・家庭学習用教材の配付や授業中の小テストにより、自主学習に主体的に取り組む環境整備ができている。授業録画や板書写真の配信により、理解が十分でない生徒のフォロー体制も定着してきた。生徒のモチベーション向上にもつながっており、今後も継続したい。
	・生徒に言語活動を通じた情報処理能力や表現力を養わせる。	・授業の中で多様な文章や問題に触れ、図表を含めた読解はもとより、グループワークやペアワークなども通して、自身の意見を述べる際の表現力を養う。また、ICT環境も積極的に活用することで、教員からのきめ細かい指導や生徒間の意見の共有を行う。	3		・ICT環境の積極的利用は教員生徒ともに慣れてきた。授業中においては教科書単元に関連させたテキストを生徒に触れさせることを意識して取り組むことができた。複数資料の比較に基づく情報処理能力は今後必須となる能力であり、一層の養成に努めていきたい。
	・生徒の理解を深めるための授業スキルの向上を図る。	・教員間で授業見学や意見交換を行い、教材研究や授業方法を省みる機会を設けることにより、生徒の理解に合わせた授業を絶えず模索し、教科全体でスキルアップにつなげる。特に、新学習指導要領に即した教材選定は国語科全体での課題とし、定期的な意見交換の場を設ける。	4		・新課程や大学入試変革に伴って、教員間での授業内容の共有や意見交換は今まで以上に密に行うことができた。生徒の社会で求められる能力が大きく変化する中で教員自身が置いていかれないように情報収集に努めるとともに、緊密な意見交換を続けていきたい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
地歴 公民	・多様性を前提とした社会に生きる主権者として必要な政治的教養ならびに国際感覚・人権感覚を自ら習得し判断することのできる主体的学習者を育成する。	・我が国や世界の歴史・地理・文化の学習を通じ、価値観や多角的な視点の涵養や多様性への理解、思考力を養う授業展開を積極的に行い、相互理解や共生に必要な知識を自ら習得できるようにするための探究的活動・対話的活動を保障する。	4	4	・グループワークを通じて対話的な活動を行うことができたが、授業進度との兼ね合いで講義形式が中心の授業も多くなってしまうため、今後はバランスをとっていくことが肝要であると考える。また、他教科や他科目との横断的な学習を視野に入れて、多角的な視点の涵養を図ってきたい。
		・基本的な知識に基づき、図表やデータを用いて生徒自身の主体的な理解を促す教育活動を通して論理的な思考力を育成し、そこで形成されたそれぞれの主張を他者に伝える表現の場を設ける。	5		・どの科目でも意識的に図表の読み取りやデータの活用の機会を増やし、生徒の論理的思考を育成することができた。次年度も継続していきたい。
		・在学中に成人となり、選挙権を取得するにあたり、社会の形成者としてふさわしい態度をやしない、権利や義務の主体として能動的に行動する意義や法的なものの見方・考え方を養うため、授業その他において得られる知識や活動が自身の人生や我が国および国際社会の将来とどのようにかわるかを意識するための言語活動などを保障する。	4		・一部で目標の達成が難しい科目や単元はあったものの、概ね社会の形成者としてふさわしい態度の育成に努めることができた。さらに工夫を重ね、市民の育成に資する教育活動をしていきたい。
	・上記の目標を達成するための教員の取り組みに関する共通理解を発展させ、水城高校が目指す学力観、かつ21世紀に必要な学力観に沿った学習指導を行う。	・個々の教員の取り組みとして実践されてきた主体的・対話的で深い学びを支援する教育実践や教材研究、教材観を共有し、共通理解を発展させ、生徒に身につけさせるべき資質・能力の育成やその評価について、教員組織としての最低水準を高め、学習のデザインや筆記試験・探究課題の出題スキルを向上させる。	4		・主に授業の打合せや定期試験の作問を通じてお互いの教育実践や教育観の共有を図ることができた。次年度は新科目が多くスタートするため、より情報共有の機会を増やして連携を密にしていきたい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
数学	・生徒の基礎学力の向上を図る。	・授業重視を徹底させる。そのために教員一人ひとりが授業力の向上と生徒理解に日々努める。また、学年・教科担当者との連携を深め、より効果的な授業を展開するように努める。	5	5	・教科担当者同士、適度に話をし連携を深められている。授業重視で教科書、副教材、小テストなどを多用し、各担当者行っているので、それを継続していきたい。
		・問題集を活用して演習量を増やし、基礎学力の定着を図る。また、小テストを実施して生徒の定着度を確認する。	5		・問題集を活用し、普段の学習量を増やしている。小テストも実施し各担当者が定着度を確認している。
	・生徒の家庭学習習慣を確立させる。	・教科書や問題集等から課題を定期的に出すとともに、日頃から自らの意志で取り組むことの重要性を説き、家庭学習習慣を定着させる。	5		・宿題を問題集やプリントで定期的に出し、家庭学習を定着させた。今後も自ら学習に取り組ませるよう、継続してつとめていく。
	・ICT教材を活用し、生徒の理解度を高めるような授業を展開する。	・グラフソフトや動画ソフト等を利用し、わかりやすい授業をするように努める。また、ALやファイル配布システム等を利用して、生徒の理解度を確認し、個々の生徒に適した教材を提供する。	5		・資料アーカイブ利用や、授業理解度をパソコン内に蓄積したり、授業動画作成など授業スキルは向上している。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
理科	・自然科学に対する関心を高める。	・観察、実験やデジタルコンテンツを積極的に取り入れてイメージを捉えやすくし、時事問題など関連付けをし、生徒の興味・関心を喚起する。	4	4	・教員間で、生徒の興味関心を喚起するような授業内容・展開を共有できている。次年度以降も継続したい。
	・基礎学力の定着を図る。	・教員それぞれが、新入試問題(思考的な演習問題など)の研究・分析をし、各コースごとに達成すべき目標を明確にし、教員間で共通認識をもつ。 ・教科書内容を理解・記憶させ、小テストや定期試験を用いてその定着を図る。	4		・定期試験・小テスト・不定期試験などを実施し、学習内容の定着を図ることができた。次年度以降も継続したい。
	・ICTを活用し、生徒の理解度を高める。	・資料アーカイブでの授業配信やチームズ等を利用し、生徒の家庭学習を支援し、理解度を高めるようにする。	4		・前年度よりも、資料アーカイブへの授業や問題解説動画等を多く配信でき、生徒の学習環境を充実させ、理解度を高めることができた。次年度以降も継続したい。
	・生徒の家庭学習習慣を確立させる。	・普段からこまめに復習をすることと主体的に取り組む重要性を説き、家庭学習の定着を促す。	4		・1年生の理系志望者や23年生の理系選択者に向けては、より一層意識させることが重要であると感じる。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
保健 体育	・生涯を通して主体的にスポーツ活動に親しめる姿勢を養う。	・スポーツ活動を通して生まれる楽しさや爽快感、各種目の技術を習得できた時の達成感や満足感を感じられる授業展開をする。 ・様々な種目のスポーツを授業で取り入れ、自分の得意なスポーツを見つけられるようにする。	5	4	・新型コロナウイルス対策として体育実技の内容を制限するところはまだあるが、その中でも生徒達が楽しめるよう授業内容を工夫してスポーツ活動を意欲的に積極的に実施できるようにする。
	・保健の授業で学んだ知識や技術を自分の生活の中で役立て、更に実践できるようにする。ICT教材の活用を実施する。	・現在、日常生活の中で話題となっていることを中心に授業を展開し、実際の生活と結び付けて主体的に知識の理解を得られるようにする。 ・ICT教材(デジタル教科書等)を利用して探求し、興味関心を得られるような授業展開を図る。	4		・日常生活の話題を取り上げ身の周りで起こる事象に対処できる知識や能力を身につけさせるようにする。デジタル教科書を活用し理解度の向上を目指していく。定期試験前に確認テスト等を実施しその結果をタブレットを用いて報告させ理解度をチェックする。
	・用具や施設を大切に使う態度を養う。また、安全に留意し自分の役割と責任を果たしながら互いに協力する態度を養う。	・授業で使用する施設の道具の準備・片づけを行うことで、生徒達に責任感や公共心を培うよう指導する。また怪我の防止、安全に十分留意し、助け合いながら学ぶコミュニケーション能力を養わせる。	4		・体育用具の管理・施設等の使用に関し決められたルールをしっかりと守り、公共物を大切にさせる。新型コロナウイルス対策として授業開始前、終了後の消毒、体育用具の使用開始前と終了後の消毒を徹底させる。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
芸術	・各科目の特質についての知識を深め、意図に基づいて表現する為の技能を身につけられるようにする。	・表現と身近な生活との関わりを理解した上で、各科目の基礎的な知識・技能を身につけ、意図に応じて方法を工夫した表現ができるようにする。	4	4	・基礎的な知識や技能を習得し、活用できるようにする。
	・創造的な表現を工夫するとともに、芸術の良さや美しさを深く理解して味わうことができるようにする。	・各表現の特性や表現過程を理解し、自ら考え、判断し、調和・バランスを考えながら表現できるようにする。	3		・様々な思考をもとに、総合的な判断力を身につけられるようにする。
		・鑑賞を通じて、対象の見方や感じ方を深め、工夫されている点や芸術的な価値を適切に感じ取れるようにする。	4		・自らの価値に気が付けるようにする。
	・芸術を愛好し感性豊かな生活をおくると共に、来たるべき社会を創造していく態度を養えるようにする。	・鑑賞に関わる知識を得、その背景との関わりや自然と表現との関わり、さらに、社会における有用性を考えつつ、主体的で創造的な学習(表現)ができるようにする。	4		・社会と芸術の関わりに気づき、考え、主体的に創造的な学習に取り組めるようにする。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
英語	・「聞く」「話す」「読む」「書く」を総合的かつ統合的に指導することと、実践的なコミュニケーション能力を育成するだけでなく、入試に対応できる英語力を身につける。	・聞く力：初期段階において多くの英語の音声聞かせ、文字からではなく音声からの英語習得を図る。	4	4	・リスニングおよびディクテーションの教材・指導内容のさらなる向上を図る。
		・話す力：正しい発音での英文暗唱を行ったり、英語で簡単に自分の意見を言えるようにする。ALTによる英語では生徒が積極的に英語を話すことのできる場を確保する。	4		・ALTとの授業での扱うテーマや活動内容をさらによいものにしていく。
		・読む力と書く力：英文法の基礎力をつけつつ、「英文の直読・直解を行う。また、文章の段落構成を意識させ、まとまりのある段落・文章を書けるようにする。英語検定の英作文に向けての対策も行う。	4		・英作文の教材作成にさらに力をいれる。
	・学校全体で生徒が積極的に英語学習に取り組める環境を作る。そして、生徒が自ら英語学習に向かっていくように仕向ける。	・文法の習得：授業では基本的な文法事項の定着を目指し、ゼミではその力を応用レベルまで向上させていく。反復練習を中心に行い定着を図る。	4		・ゼミの使用教材およびその内容をさらによいものにしていく。
		・動機付け：授業の内容や教材を工夫し、生徒の動機付けを行う。また、英語検定などの資格取得を目指すことで学習意欲を高める。1年時に英検準2級、卒業までに英検2級の取得を1つの目標とする。	4		・授業内での英検対策および放課後の英検二次試験対策講座を継続して行っていく。
	・多様化する入試科目としての英語を研究する。それにしっかりと対応するために、教員の更なる英語指導力の向上を図る。特にICTを使った教授法について研究する。	・実践力の強化：大学入試の出題傾向や出題形式を教員が分析する。特に、新入試での問題の変化に対応する。教員自らが生徒に合った教材を作成し、入試に対応できる力を付けさせる。積極的に授業参観を行い、教員同士が互いに向上しあえる環境をつくる。	4		・大学入試問題の動向について話し合うための機会を設ける。また、今年度から本格的に始まった授業録画のシステムを活用し、各教員が積極的に他の教員の授業から学ぶ機会をつくる。
		・指導力の強化：ICTを使った教授法に関して校内で研修会を行う。教員各自が外部の研修会などに積極的に参加する。	4		

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
家庭	・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を習得する。	・知識・技能、思考・判断・表現を意識した課題に主体的に取り組むことで基礎的・基本的知識を習得する。	4	5	・家族・家庭、環境、衣生活、食物、共生社会(子ども・高齢者・福祉)、住居、経済の各単元を知識に加え、実習などを通して身に付けられるようにする。
	・学習した知識と技術を活用し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する力を身に付ける。	・家庭や地域の問題点を見つけ、その解決方法を考えるような課題に取り組むことで、家庭や地域に主体的に関わり、課題を解決する力を身に付ける。	5		・各分野における調べ学習により知識定着および・問題点の把握。グループ学習や実習を通して、協働により解決方法を見出せるようにしたい。
	・様々な実習を通して実践力を身に付け、日々の生活に生かせるようにする。	・被服実習(基礎縫い・お手入れ方法等)・調理実習を通して生活に必要な実践力(食品選択・献立・調理・片付け・廃棄等)を身に付け、日々の生活に生かせるようにする。	5		・被服実習や調理実習、石鹸作りを通して、技術力の向上と生活に必要な実践力をつけさせたい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
情報	・トラブルシュート力の習得	・インターネットへの接続不良やアプリ等のトラブルが生じた際、生徒自身で解決が図れるよう指導していく。	4	4	・インターネットへの接続不良トラブルが多いことから、少なくともその対処方法は全員にマスターさせたい。
	・情報リテラシーの習得	・インターネットの利用や教科書を通して、正しい情報収集能力や情報モラル、著作権の利用等、情報リテラシーを学んでいく。	4		・社会的に問題となっているようなSNS上でのトラブルが起きないよう、今後も再三注意を促していきたい。
	・プログラミング的思考の習得	・ScratchやHTML、VBAといったプログラミング言語を通じて論理的思考を涵養する。	4		・論理的思考力が身に付いたかどうかの評価方法をどうすべきか考えて行く必要がある。また、大学入試共通テストに対応した授業も展開していきたい。
	・タブレットの可用性を確保	・システム部と連携し、生徒がICT環境を円滑に利用できるようにする。	4		・タブレットのトラブル(故障等)に対応できる教員が各学年に2人ずついると、よりきめ細かな対応が可能である。

評価基準
 5:十分達成できている
 4:達成できている
 3:概ね達成できている
 2:不十分である
 1:達成できていない

2. 校務分掌

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
教務部	・教員の授業力向上に努める。	・タブレット、Teams、資料アーカイブ等を活用し、生徒の理解力向上のための授業が行えるよう、校内研修会の充実に努める。	4	4	・授業動画に関しては、多くの教員が毎時間配信し、生徒の理解力向上のために努力している。新課程2年目となる令和5年度は、さらなる教員のスキルアップに努める必要がある。
	・より一層のペーパーレス化に努める。	・校内業務の書類や生徒への課題配布などのペーパーレス化を進め、省資源と経費節減に努める。	4		・教職員の意識向上によりペーパーレス化が進んでいる。令和5年度も省資源と経費節減に継続して取り組んでいく。
	・保護者、生徒へ有益な情報提供に努める。	・多様な手段で動画配信等を行い、委員会活動や部活動の活性化とともに在校生やその保護者に充足感を提供できるよう努める。	4		・教職員の創意工夫により、様々な手段で有益な情報発信を行うことができた。令和5年度も継続していく。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
進路指導部	・学力の3要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性)を身につけた生徒を育成し、希望進路を実現させる。	・放課後や長期休業中の課外学習である「ゼミ学習」を提供するとともに、入試分析や模試分析の結果を学年や教科に還元し活用することで、生徒の学力を向上させる。	4	4	・コロナの感染拡大とゼミの実施時期が重なり休講せざるを得ない講座もあったが、次年度以降も引き続き、より有益なゼミを計画したい。進路の模試分析を受けて独自に分析を加え生徒集会等で情報を還元したコースもある。校内の気運をさらに高めたい。
		・昨年度以上に校外での主体的な学びの場の機会を提供し、地域茨城との一体化を深めることで「総合的探究の時間」をさらに充実させ、社会に開かれた教育活動を行う。	5		・昨年度に比べコンテストへの参加者数はかなり増加した。「いばたん」に関しては、1次予選通過21グループ中13グループが水城で、本選では「最優秀動画部門作品賞」等を受賞した。引き続き主体的な学びの場を提供し「総合的な探究の時間」を充実させたい。
		・「スタディーサポート」や「キャリアパスポート」等を活用し学びのPDCAサイクルを生徒に確立させる。また「医学セミナー」や「一日看護体験」等の課外の活動への参加を促し進路意識を高める。	4		・コロナ禍で「一日看護体験」等の職場体験は計画通りには実施できていない。次年度も制限の中ではあるが内容を精選し質の高い課外活動への参加を促すことで進路意識を高めたい。「キャリアパスポート」の運用は定着した。有効活用できるよう働きかけたい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
生徒指導部	・基本的生活習慣の確立を通じ、充実した学校生活を送れるようにする。	・教職員の共通理解を深め、足並みのそろったきめ細かい生活指導体制を整える。	4	4	・教育相談部や学校カウンセラーとの連携をさらに密なものとしていく。校則(生徒心得)を教員・生徒で必要に応じて変更等していく。
	・規範意識を持ち、きちんとした行動ができるようにする。	・交通ルールやマナーについて学び、公共の場での責任ある行動がどのようなものか考える機会を提供する。SNSでのモラルについても学びの場を提供する。	4		・ルールやマナーへの遵守精神を涵養し、主体的に実行できるようにする。
	・自主的・主体的に物事に取り組み、勉学のみならず部活動や校外活動も充実した生活を送れるようにする。	・生徒会活動や各種委員会活動をさらに活性化させる。	4		・交通安全対策事業に生徒二人が参加できた。生徒会、生活委員、美化委員による、マナーアップキャンペーンを実施した。今後発展させていく。
	・安心、安全な学校生活を送れるようにする。	・いじめ等の問題について、早期に発見し組織的に迅速な対応を心掛ける。外部講師による安全講話、全校集会やHRでの話を通じて、事件・事故を未然に防ぐ意識を向上させる。	4		・いじめ調査を3回実施する等きめ細かな対応ができた。教員への研修機会をさらに増やしていく。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
保健環境部	心身の健康の保持増進を図る。	・主体的に自ら健康管理ができるよう自己管理能力の向上を図る。 ・多様化・複雑化した健康課題を抱える生徒の支援の充実を図る。	4	4	・年度始めに実施した各種健康診断の結果を踏まえ、健康で充実した学校生活を送れるように自身の健康状態に引き続き関心をもたせたい。コロナ禍にあって、通常生活が失われ本来経験できる機会を失ったことによる経験不足は否めない。まだ精神的に不安定な状態な生徒も見受けられる。また時代とともに耐性も弱くなって来ているようにも思われる。時代に合った気づきを促し、心身ともに健康な生徒を育成する手立てを考えたい。
	健康管理の充実を図る。また、継続してコロナ対策として「学校の新しい生活様式」の確立を図る。	・健康で安全な学校生活を送れるよう環境の維持、改善を図る。清掃活動を通して美化の意識の向上を図る。 ・コロナ対策の基本として、①密を避ける②マスクの着用③手洗い消毒による手指衛生を徹底させる。 ・健康診断等から健康状態を知り、自らの健康に関心を持ち自ら保持増進する意識の向上を図る。	4		・コロナ禍になりこの3年間で、ひとりひとりが健康に対しての意識が高まったように思われる。うがい・手洗いの励行はもとより、検温や換気等あらゆる面で徹底されているようである。今後コロナが5類に分類されても、日頃から感染症対策を講じられるように促したい。また、体育科で毎年実施する体力測定等により、自分自身の体力の現状を把握させ、自らが自己の健康の保持増進出来るように促したい。
	社会貢献への意識向上を図る。	・全校での献血啓蒙活動を行う。 ・卒業献血を実施し、赤十字血液センターの献血に協力する。	4		・昨年度は、コロナの影響によりやむなく中止せざるを得なかったが、今年度は無事に実施することが出来た。献血は、ひとつの個人ができるボランティア活動・社会貢献活動である。卒業献血をきっかけに継続的に献血を実施出来る生徒をひとりでも多く増やしていきたい。次年度の実施に向けて、献血パンフレット等を配布し、学校としても啓蒙活動を行っていききたい。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
教育相談部	・教育相談・カウンセリングの充実を図る	・教育相談室やカウンセリングルームを整備し、生徒が相談しやすい環境を整え、生徒の抱える問題や悩みに適切に対応する。	5	5	・教育相談室は、生徒からの相談のほか、別室学習の自習場所・教室に入れない生徒の別室学習の場所として有効に活用された。今後ニーズの高まりに応じてより多くの生徒に対応できるよう、更に環境の整備を進めたい。カウンセリングの予約は、HPや担当教員を通じて適切に行われ、生徒・保護者の相談に活用された。
	・個に応じた適切な生徒支援を行う	・担任・学年主任・部活動顧問・養護教諭・カウンセラーなどとの連携を緊密にし、情報を共有することで、個に応じた適切な支援を行う。	5		・月1回教育相談報告会を実施し、各学年からの報告をもとに養護教諭、カウンセラーと情報を共有し、対応を検討してきた。報告会以外にも、担任・学年主任と教育相談部が相談し、別室学習をはじめ個に応じた支援を迅速かつ適切に行うことができた。次年度は制度を整備し、よりきめ細やかな支援を継続したい。
	・校内研修の充実を図る	・生徒支援や生徒対応についての研修会を実施したり、教育相談の分野に関する情報や方法を教員に提供したりすることで、教員全体で生徒理解と対応に努める体制を整える。	4		・「SUJIO教育相談だより」を3回発行し、適時、生徒や保護者にメッセージを届けた。コロナ禍のため教員研修会は実施できなかったが、2回実施した「自己評価調査」について、活用のポイントをまとめた資料を作成し、教員への周知に努めた。今後、教員全体が教育相談・生徒支援に関する理解をより深め、生徒理解と対応に努められるよう体制を整えたい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
渉外部	・魅力的なPTA活動を目指す。	・総会、常任委員会、各種委員会の参加率・出席率を高め、活発な意見交換を促す。 ・視察研修、講演会等のPTA行事への参加者を増やす。	4	5	・コロナウィルスとバランスをとりつつ、次年度は3年ぶりにPTA総会開催を実現させ、各種委員会・常任委員会ともに充実ある活動を促していきたい。また、PTA二大行事であるPTA講演会・PTA視察研修会は、内容の充実とともに参加率をあげられるようにしたい。学校と一体となる活動を行い、生徒に還元できるようにしたい。
	・機能的な組織作りを目指す。	・システム(お知らせメール・資料アーカイブ等)を活用し、会員との双方向の意見交換を可能にする。	5		・システムを活用した文書配信・出欠確認を継続していきたい。また、アンケート機能を用い、意見を取り入れられるように努力していきたい。
		・PTA会員の現状に則した機能的で効率的な組織作りを目指す。 ・限られた予算を有効かつ公平に多くの会員に還元できる企画・方法を考える。	5		・公平に全会員に還元できるよう、学校・本部役員を中心に組織を作り、また、常任委員会を交えた審議を円滑に行っていくたい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
生徒募集部	・安定した入学者数の確保を図る。	・単願入学者数を増加させるため、戦略的に広報活動を行う。	5	5	・今年度、推薦入試合格者の単願・単願切り替えによる入学者を獲得できたことは評価できる。しかし、コースによっては、なかなか目標とする数と異なっている実情もあり、次年度の課題としたい。
	・情報発信力を強化する。	・引き続き、SNSなどを利用した広報活動を持続的に実施する。	5		・SNSなども利用する広報活動については、一定の成果をあげたと考える。また、新聞等の活字媒体上での広告はほぼ行わなかったが、時代の趨勢であると考えている。一方で、ショッピングモールや公共施設での電子公告などを行っている学校もあり、各校のイメージ向上に繋がっていく可能性も認められ、本校としても様々な方法を、今後も検討していく。
	・教職員一体となつての生徒募集活動を展開する。	・管理職、他の校務分掌、学年などとの連絡を緊密にし、校内一丸となつての募集活動を実施していく。	4		管理職との情報交換は比較的頻繁なものであったと考える。一方で、学年や他の校務分掌への情報発信には課題が残った。生徒数が減少していく中で、危機感の共有は重要であると再認識したい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
システム管理部	・安定稼働に向けた高い冗長性と可用性の確保。	・費用対効果を見極めつつ、事業継続性を高めるシステム構成の改善を継続する。	5	5	・光回線の切替えやサーバー障害があったも大きな影響を出すことなく対応できた。引き続き継続していく。
		・情報科と連携し、生徒がICT環境を円滑に活用できるようにする。	5		・情報科の教員と連携しながら、生徒端末の不具合や修理依頼にスムーズに対応できた。引き続き円滑に活用できるようにしていく。
	・使いやすさや利便性をさらに向上させる。	・老朽化した機器を適宜更新することで、増大するトラフィックや授業環境改善の要望に応えていく。	5		・インターネット回線の大幅な高速化、教員用WiFiの高速化、教室のプロジェクターの更新を行った。次年度は生使用WiFiをWiFi6e対応のアクセスポイントにしてい。
		・教員の負担感が増えることなく『授業の録画』が行えるようにシステムや機材の工夫を行う。	5		・次年度の完全実施にも十分耐えうる構成が作れた。引き続き関連システムの改善を行い、安定稼働するようしていく。
	・水城のICTでコロナ禍以降の教育環境の新常態を支える。	・『授業の録画』での配信を定着させ、授業を受けられなかったり、理解が不十分だったる生徒に対応できるようにする。	5		・学校を欠席した生徒などからのニーズがとてもあることが確認できた。このことを教員に理解させ、次年度の完全実施がスムーズに行えるようにする。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない

3. 学年

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
1学年	基本的な学習習慣を確立し、自らの意志で主体的に「学ぶ」ことのできる生徒を育成する。	・予習→授業→復習→定期試験→振り返りの学習サイクルを確立し、高校生として必要な家庭学習の質と量を確保することができるように指導する。また、朝自習や放課後のゼミ学習などを利用して、学習習慣の定着を図る。	4	4	・クラスやコース、個人によっては学習サイクルを確立させ、能動的積極的に学習活動に取り組むようすが窺える。この流れに乗り遅れた生徒たちを支援し学習習慣の定着を促したい。
	自らの将来の進路に関して真剣に考えることができる生徒を育成する。2年次に向けて適切な文理選択ができるように指導する。	・進路適性検査、キャリアガイダンス、教育課程説明会、進路講演会などを通じて、生徒たちが進路について真剣に考える機会を設ける。 ・学級懇談会や面談を通じ、保護者との情報の共有を図り、保護者・教員が共通理解の元で生徒の進路についてサポートすることができる環境整備に努める。	5		・夏と冬の2度の三者面談だけでなく、担任と生徒の二者面談のほか様々な進路関係の講話や行事を通じて、文理選択については納得のいく選択が出来た。次年度は学問系統や進学先への適性の確認や自己理解を深めさせていきたい。
	様々な学校行事を通して、コミュニケーション能力と健全な道徳観を育成し、多様化する国際社会に適応する人材の育成を目指す。	・文化祭、民間学校やクラスマッチなどの学校行事やクラス内での活動、そしてボランティア活動を通して、生徒同士または生徒と教員がお互いに協力し合う経験を積み、生徒の積極的な校外活動を促し、他者との適切な関係性を築くことのできる成熟した大人への成長をサポートしていく。	4		・コロナ禍の中ではあるが様々な学校行事や個人々の活動が実施できた。漫遊マラソンボランティアを始め数ある校外の活動にも目を向けさせ、個人の自立を促していきたい。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
2学年	・自分の適性を知り、3学年に向けて具体的な進路選択が出来るような下地をつくる。また、保護者とも適宜情報を共有し、学校・家庭双方で進路実現のサポートが出来るようにする。	・2学年でも進路適性検査を行い、自分がどのような分野に適性が高いのか知ることが出来るようにする。 ・LHR、朝、昼休み、放課後等を利用して、2者面談を適宜実施し個別指導を行う。また、教材を用いて進路について考える機会をクラスで定期的に設ける。 ・進路講演会・大学出張講義の学年行事、大学等のオープンキャンパス・学校説明会と、進路を意識する行事に積極的に取り組むよう働きかける。また、行事ごとにキャリアパスポートを作成し、課題や気付きを深められるようにする。 ・学級懇談会、3者面談、保護者のための学習会、資料アーカイブの活用など、保護者が学習できる場や保護者と情報の共有が出来る環境をつくるように努める。	5	5	・具体的な進路を実現するために、自分の適性をみて、多くの手段がある中でどのような方法が自分に合っているのか、よく考えられる環境をつくる。 ・個別面談を多く行う等して、個に応じた指導環境をもっとつくれるように努める。
	・社会で必要となる規範意識やコミュニケーション能力を育成し、国際社会に適応する人材の育成を目指す。	・文化祭、クラスマッチ、修学旅行など、学校行事等を通して、生徒同士、または生徒と教員で積極的に討論することで、お互いに協力し合い、一つの目標を達成する経験を積ませる。そして、他者との適切な関係性を築くことのできる成熟した大人への成長をサポートしていく。	5		・学校行事を通して、社会に貢献できる大人への成長を更にサポートしていく。
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評価	総合評価	反省・次年度への主な課題
3学年	・生徒が進路について主体的に考え、適切な進路目標を設定できるようにする。	・早期の進路志望確立を目指し、志望大学の「オープンキャンパス」に積極的に参加させる。 ・二者面談、三者面談を定期的に行い、生徒と保護者の希望をきちんと把握する。 ・進路ガイダンスや進路講演会、学級懇談会、コース集会等を通じて、生徒と保護者に進路に関する最新の情報を提供し、進路目標設定の際に適切なサポートを行う。	5	5	・面談、集会、学級懇談会、進路講演会等を通じて、生徒と保護者に対して進路情報を十分に提供することができた。推薦入試の校内選考や一般入試の出願に関しても、生徒と保護者と教員との相互理解のもと、概ね順調に進めることができた。特に限られた期間の中で総合型選抜、学校推薦型選抜の指導が的確に行えた。
	・希望する進路に応じた学力、新入試に対応できる学力を身に付けさせ、希望進路を実現させる。	・授業を大切にするように指導する。 ・大学入試を意識した内容に移行し、レベルや内容について、きめ細かな授業・ゼミ・朝自習を行う。 ・一般選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜それぞれの違いに応じた指導を展開する。	4		・個々の生徒の進路希望に応じた学力を、十分につけさせることができたとは言い難い。大学入学共通テストの結果を踏まえて、国公立大学の出願先を大きく変えた生徒も少なくない。一方、受験に向けての環境や雰囲気づくりは概ね成功した。最後まで諦めずに毎日登校し、勉強に励んでいる生徒が多く見られ、各教員も出来る限りの支援を惜しまなかった。
	・基本的な生活習慣を維持させ、愛校心や道徳心、自ら考えて行動する姿勢を養う。	・クラスマッチ、文化祭、修学旅行代替行事等の学校行事を通じて、生徒同士がお互いに協力し合う経験を積み、他者との適切な関係性を築くことのできるようにサポートしていく。 ・挨拶、時間を守る、身だしなみ、清掃指導を徹底し、マナーを向上させ、規範意識を確立させる。 ・保健室や教育相談部、カウンセラーとの連携を取り、生徒一人ひとりに対してきめ細やかな対応を行う。	5		・感染症対策を講じながらクラスマッチ、文化祭、修学旅行代替行事を成功させることができた。様々な点で保健室、教育相談部、カウンセラーと連携を図り、生徒一人ひとりと向き合う支援ができた。

評価基準 5:十分達成できている 4:達成できている 3:概ね達成できている 2:不十分である 1:達成できていない